

**令和5年度**

**普及指導活動における外部有識者  
との意見交換会 実施報告書**

**岩手県農林水産部農業普及技術課**

## 目 次

	頁
第 1 実施内容	1
第 2 意見・助言	3
○ 農業普及技術課農業革新支援担当	4
○ 盛岡農業改良普及センター	6
○ 八幡平農業改良普及センター	8
○ 中部農業改良普及センター	10
○ 奥州農業改良普及センター	12
○ 一関農業改良普及センター	14
○ 大船渡農業改良普及センター	16
○ 宮古農業改良普及センター	18
○ 久慈農業改良普及センター	20
○ 二戸農業改良普及センター	22
添付 普及指導計画の策定及び普及指導活動の実施と評価に関する要領	24

## 第1 実施内容（令和5年度岩手県普及指導活動に係る外部有識者との意見交換会実施要領）

### 1 目的

「令和5年度岩手県普及指導活動に係る外部有識者との意見交換会実施要綱」（以下「要綱」という。）に基づき、この実施要領をもって、令和5年度の外部有識者との意見交換に係る運営方法等を定める。

### 2 実施主体

農業普及技術課

### 3 外部有識者

地域の先進的な農業者（農業農村指導士等）や農業関係団体、消費者、学識経験者、報道機関、民間企業等から、各分野に偏りが出ないよう5名に依頼した。

区分	所属等	氏名
先進的な農業者	公益社団法人 岩手県農業法人協会 会長 (岩手県農業農村指導士、西部開発農産 代表取締役社長)	照井 勝也
農業関係団体	岩手県農業協同組合中央会 JAいわてグループ農業担い手サポートセンター センター長	山崎 勉
学識経験者	国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 東北農業研究センター 緩傾斜畑作研究領域 生産力増強グループ グループ長	宮路 広武
報道機関	岩手日報社 論説委員長	四戸 聡
民間企業等	一関まちづくり株式会社 代表取締役 (新鮮館おおまち 店長)	梁川 真一

### 4 日程及び会場

#### (1) 日程

令和6年3月7日（木）10:00～16:20

#### (2) 会場

岩手県公会堂 21号室（ウェブ会議併用）

#### (3) 参集方法

外部有識者及び発表者、農業普及技術課は公会堂に参集し実施。各農業改良普及センターはLiveOnで接続し意見交換の様子を配信。

### 5 対象課題

#### (1) 県重点プロジェクト

課題	公所
水田フル活用による収益性の高い水田農業の確立	農業革新 支援担当

#### (2) 普及センターの主要な地域課題普及指導計画

課題	公所
地域の担い手となる経営体の育成	盛岡
産地を担う経営体育成による野菜産地力の向上	八幡平
競争力の高い米産地の育成	中部
産地をけん引する企業的経営体の育成	奥州

水田フル活用による収益性の高い水田農業の確立	一関
野菜産地の維持拡大	大船渡
水稲・畑作物の生産力向上	宮古
産地力向上に向けた酪農及び和牛経営体の育成	久慈
次世代を担う新規就農者の確保・育成	二戸

## 6 意見交換の視点

項目	意見交換の視点
課題背景 選定理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現状把握がしっかり行われているか。</li> <li>・支援対象をしっかりと捉えているか。</li> <li>・課題選定は適切か。その場限りの対処法に偏っていないか。</li> <li>・根拠を踏まえて課題設定しているか。</li> </ul>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的な目標となっているか。</li> <li>・過小でもなく、過大でもない、根拠ある適正な目標となっているか。</li> <li>・関係機関等との共有が図られているか。</li> </ul>
活動体制 活動内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動方法と活動時期は適切か。</li> <li>・所内での役割分担と連携体制は明確か。</li> <li>・県重点プロジェクト計画（地域重点課題普及指導計画）との連携が図られているか。</li> <li>・試験研究機関等の関係機関と連携が図られているか。</li> <li>・支援対象等とのコミュニケーションが図られているか。</li> </ul>
活動実績と成果 地域や対象の変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実績と成果が見出されているか。</li> <li>・実績と成果につながった要因を分析しているか。</li> <li>・地域や対象の変化をしっかりと捉えているか。</li> </ul>
残された課題 今後の対応方向	<ul style="list-style-type: none"> <li>・残された課題をしっかりと捉えているか。</li> <li>・今後の対応策をしっかりと設定しているか。</li> </ul>
参考意見（プレゼンテーション）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作成した資料は見やすく、発表は明瞭で分かりやすいか。</li> </ul>

## 第2 意見交換内容

意見交換内容

1 意見交換の実施状況

実施日時	対象課題（中課題）	外部有識者		
		氏名	所属及び職名	区分
令和 6 年 3 月 7 日 10 時 00 分～16 時 30 分	(1) 水田フル活用による収益性の高い水田農業の確立	照井 勝也	公益社団法人 岩手県農業法人協会 会長 (岩手県農業農村指導士、西部開発農産 代表取締役社長)	先進的な 農業者
実施場所		山崎 勉	岩手県農業協同組合中央会 JAいわてグループ農業担い手サポートセンター センター長	農業関係団体
岩手県公会堂 21 号室 ウェブ会議		宮路 広武	国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 東北農業研究センター 緩傾斜畑作研究領域 生産力増強グループ グループ長	学識経験者
		四戸 聡	岩手日報社 論説委員長	報道機関
		梁川 真一	一関まちづくり株式会社 代表取締役 (新鮮館おおまち 店長)	民間企業等

2 課題別の意見

対象課題	意見・助言
(1) 水田フル活用による収益性の高い水田農業の確立	<p>【照井会長】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>今後、集落営農など担い手などの作付け面積は拡大していくという視点は評価できる。特に受託面積の増加に伴い、水稻・大豆・小麦・野菜の組合せ、地域ごとに異なる作物を取り入れていることは評価できる。</li><li>少ない時間で広い面積をこなすには、新技術導入による適期作業、省力化がさらに重要になることから、そのような視点での取組みを期待したい。</li><li>今後、個人農家の減少により担い手への農地集約による負担が懸念される。そういった受け手となる担い手の組織作りが重要になってくる。</li></ul> <p>【山崎センター長】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>意見、要望として、水田フル活用について、背景の通り収益性の向上が目的の一つとしてある。経営体の収益向上や収益性について取組を深めていって、併せて取組みを評価してほしい。過去 5 年間自分も取り組んできたが、できなかったこともあるので、関係機関と連携して取り組んでいていただきたい。</li><li>マニュアル等の整備等はしっかりと考えていて評価できる。</li><li>法人等の収益性がどのように変化しているのか、しっかりと把握し活動していただきたい。</li></ul> <p>【四戸論説委員長】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>経営体ごとに、生産の方向性と課題を明確にし、作付け状況や気温等に応じた具体的な技術指導、マニュアル作成支援などがなされている点が評価できる。</li></ul> <p>【梁川代表取締役】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>課題に対する技術指導が明確であった。</li><li>現状把握を出荷者より深くディスカッションし、出荷者が求める取組みを期待します。</li></ul>

3 普及指導活動の体制等への意見

普及指導活動の体制等	意見・助言
(1) 組織体制	<p>【山崎センター長】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>課題認識と次年度への課題整理がしっかりできている。</li> </ul> <p>【宮路グループ長】 (県重点)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>目標設定や具体的な課題の抽出と改善への取り組みが的確に行われている他、革新支援担当と農業改良普及センターとの連携、サポートも十分に行われている点は評価できる。</li> </ul> <p>(県重点・地域重点全課題)・多くの報告で、革新支援担当と普及センターの連携が示されており、今後もの確な連携・サポートが行われることを期待します。</p>
(2) 人員の動向	
(3) 普及員の資質向上の取組	
(4) その他	<p>【宮路グループ長】 (県重点)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>モデル経営体の育成だけでなく、モデル経営体から、他の経営体への波及が得られるよう、引き続き取り組まれることを期待します。また、気候の変動など、予期せぬ課題も出てきているようなので、適宜、対応に取り組まれることを期待します。</li> </ul> <p>(県重点・地域重点全課題)・</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>全体としてSPDCAを意識した取り組みが行われており、課題抽出から対応の実施まで、実践的に行われ、効果的な普及指導活動が行われているものと感じました。</li> </ul> <p>【四戸論説委員長】(県重点・地域重点全課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>多様な生産品目ごとの技術的指導スキルに加え、気象状況の変化や病虫害、獣害といった新たな課題への対策、法人化支援など総合的な知識が要求され、やりがいの一方、心身ともに負荷の大きい仕事と思います。十分なマンパワーの確保や各種研修態勢の充実・強化、さらには一人一人の職員の心身の健康に組織として十分に目を配ることが、今後ますます重要になってくると思います。</li> </ul>

1 意見交換の実施状況

実施日時	対象課題（中課題）	外部有識者		
		氏名	所属及び職名	区分
令和 6 年 3 月 7 日 10 時 00 分～16 時 30 分	(1) 地域の担い手となる経営体の育成	照井 勝也	公益社団法人 岩手県農業法人協会 会長 (岩手県農業農村指導士、西部開発農産 代表取締役社長)	先進的な 農業者
実施場所		山崎 勉	岩手県農業協同組合中央会 JAいわてグループ農業担い手サポートセンター センター長	農業関係団体
岩手県公会堂 21 号室 ウェブ会議		宮路 広武	国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 東北農業研究センター 緩傾斜畑作研究領域 生産力増強グループ グループ長	学識経験者
		四戸 聡	岩手日報社 論説委員長	報道機関
		梁川 真一	一関まちづくり株式会社 代表取締役 (新鮮館おおまち 店長)	民間企業等

2 課題別の意見

対象課題	意見・助言
(1) 地域の担い手となる経営体の育成	<p><b>【照井会長】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>経営体を強くするには、組織の構築が必要である。経営体にあった支援をしている。農家の発展段階に合わせた指導を心がけていただきたい。</li> </ul> <p><b>【山崎センター長】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>取組の仕組みとしては、出来上がっていると評価できる。どのように普及するかが今後の課題と考えます。</li> </ul> <p><b>【宮路グループ長】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>経営体の規模拡大、法人化などに伴い、収量向上といった生産面だけではなく、財務や労務管理など様々な対応が求められるが、社会保険労務士などの専門家派遣等、必要な支援が実施されている点は評価できる。</li> <li>また、事前の課題整理や専門家のマッチングなど、効率的な対応のサポートが実施されている点も評価できる。</li> <li>労務管理・人的資源管理については、経営体の規模拡大等に伴い、必須なものになると考えられるが、今後の対応で示されている初期段階の指導など、生産者がアプローチしやすい取り組みが行われることを期待します。</li> </ul> <p><b>【四戸論説委員長】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>農業者が法人化し、企業としての成長を目指すために必要な諸規定や税法上の対応について、普及センターが専門家との間に入り、つなぎ役となることで相談を有意義にしている。</li> </ul> <p><b>【梁川代表取締役】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>経営戦略目標を明確にし、分野ごとに専門家からの指導は、非常に良い事例と感じました。取組みを通して、スタッフの意識が変化した事、非常に大きな効果だと感じました。今後の取組みも非常に興味があります。</li> <li>マーケティングの部分もぜひ期待しています。</li> </ul>



### 3 普及指導活動の体制等への意見

普及指導活動の体制等	意見・助言
(1) 組織体制	
(2) 人員の動向	
(3) 普及員の資質向上の取組	<b>【四戸論説委員長】</b> ・ 労務管理などに関する初期指導をセンターも実施すべきという認識も妥当で、ぜひ職員個々の専門性向上に努めていただきたい。
(4) その他	

1 意見交換の実施状況

実施日時	対象課題（中課題）	外部有識者		
		氏名	所属及び職名	区分
令和 6 年 3 月 7 日 10 時 00 分～16 時 30 分	(1) 産地を担う経営体育成による野菜産地力の向上	照井 勝也	公益社団法人 岩手県農業法人協会 会長 (岩手県農業農村指導士、西部開発農産 代表取締役社長)	先進的な 農業者
実施場所		山崎 勉	岩手県農業協同組合中央会 JAいわてグループ農業担い手サポートセンター センター長	農業関係団体
岩手県公会堂 21 号室 ウェブ会議		宮路 広武	国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 東北農業研究センター 緩傾斜畑作研究領域 生産力増強グループ グループ長	学識経験者
		四戸 聡	岩手日報社 論説委員長	報道機関
		梁川 真一	一関まちづくり株式会社 代表取締役 (新鮮館おおまち 店長)	民間企業等

2 課題別の意見

対象課題	意見・助言
(1) 産地を担う経営体育成による野菜産地力の向上	<p>【照井会長】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>にんにくの皮むき機会の導入について、費用対効果が気になるのでしっかりと分析を行っていただきたい。</li> </ul> <p>【山崎センター長】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>数々発生する課題に対する対策を明確化しているところが評価できる。</li> <li>改善効果や効率性を数値化したほうが良い。</li> </ul> <p>【宮路グループ長】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>にんにくの調製作業について、課題の抽出から、先進地視察等を含む改善の取り組み、改善効果の評価まで、実践的な取り組みが行われているとともに、改善効果も確認できている点は評価できる。</li> <li>にんにくについては、単収目標が達成された場合、やはり調製作業部分が課題になる可能性もあるので、今年度の調査結果等をもとに前もって検討することなども期待します。また、にんにくでの高温時のマルチの影響による腐敗など、暑熱対策技術の要望が高くなっているとのことですので、必要に応じた対策が実施されることを期待します。</li> </ul> <p>【四戸論説委員長】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>にんにくの出荷作業の効率化について、先進地視察から皮むき機の試験導入につなげ、省力化を前進させている。</li> <li>猛暑のほか、多様な病害の克服が安定生産に不可欠と思われ、病害に関する理解と技術指導力の一層の向上が期待される。</li> </ul> <p>【梁川代表取締役】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>課題に対し、取組みが良いと感じます。</li> <li>非常に生産者、普及センターの連携ができていますと感じます。</li> <li>収量が上がり、岩手県産の農産品として市場拡大を期待しています。</li> </ul>

3 普及指導活動の体制等への意見

普及指導活動の体制等	意見・助言
(1) 組織体制	
(2) 人員の動向	
(3) 普及員の資質向上の取組	
(4) その他	

1 意見交換の実施状況

実施日時	対象課題（中課題）	外部有識者		
		氏名	所属及び職名	区分
令和 6 年 3 月 7 日 10 時 00 分～16 時 30 分	(1) 競争力の高い米産地の育成	照井 勝也	公益社団法人 岩手県農業法人協会 会長 (岩手県農業農村指導士、西部開発農産 代表取締役社長)	先進的な 農業者
実施場所		山崎 勉	岩手県農業協同組合中央会 JAいわてグループ農業担い手サポートセンター センター長	農業関係団体
岩手県公会堂 21 号室 ウェブ会議		宮路 広武	国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 東北農業研究センター 緩傾斜畑作研究領域 生産力増強グループ グループ長	学識経験者
		四戸 聡	岩手日報社 論説委員長	報道機関
		梁川 真一	一関まちづくり株式会社 代表取締役 (新鮮館おおまち 店長)	民間企業等

2 課題別の意見

対象課題	意見・助言
(1) 競争力の高い米産地の育成	<p><b>【照井会長】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 銀河のしずくの面積増は他の品種を減らすことになるのか。PR 活動はいかに販売していくかが重要となる。</li> </ul> <p><b>【山崎センター長】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 普及活動がよく見える発表で評価できる。</li> <li>・ スマート農業技術の普及について、深い分析が必要と感じた。</li> </ul> <p><b>【宮路グループ長】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「銀河のしずく」の生産拡大について、JA と連携した「地域版栽培マニュアル」の見直しや販路拡大のための PR 活動など、産地一体となった取組みは、実効性が期待され評価できる。また、刈取適期に関する情報など、的確な情報提供が行われている他、小麦条斑病について、適切な指導が実施され目標が達成されている点も評価できる。</li> <li>・ 小麦・大豆の単収向上目標については、排水対策など基本技術の指導にも取り組み効果が期待されますが、気候も含め、様々な要因が影響するので、継続した取組みを期待します。</li> </ul> <p><b>【四戸論説委員長】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 銀河のしずくの栽培にあたり、高温を踏まえて緊急に収穫実演会を開き、生産者に広く注意啓発を図るなど機動的な支援が実践されている。</li> <li>・ 生産者と共に小麦種子の条斑病対策を推進し、発生ゼロを実現した。地道な取組みが具体的な結果につながることを示すことは、相互の信頼醸成にもプラスに作用する。</li> </ul> <p><b>【梁川代表取締役】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 品質の高い商品づくりでは結果を出している。普及センターと生産者の情報共有、取組みが合った結果と感じました。継続的に県内のトップリーダーとして、各地域に展開してほしいです。</li> </ul>

3 普及指導活動の体制等への意見

普及指導活動の体制等	意見・助言
(1) 組織体制	
(2) 人員の動向	
(3) 普及員の資質向上の取組	
(4) その他	

1 意見交換の実施状況

実施日時	対象課題（中課題）	外部有識者		
		氏名	所属及び職名	区分
令和 6 年 3 月 7 日 10 時 00 分～16 時 30 分	(1) 産地をけん引する企業的経営体の育成	照井 勝也	公益社団法人 岩手県農業法人協会 会長 (岩手県農業農村指導士、西部開発農産 代表取締役社長)	先進的な 農業者
実施場所		山崎 勉	岩手県農業協同組合中央会 JAいわてグループ農業担い手サポートセンター センター長	農業関係団体
岩手県公会堂 21 号室 ウェブ会議		宮路 広武	国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 東北農業研究センター 緩傾斜畑作研究領域 生産力増強グループ グループ長	学識経験者
		四戸 聡	岩手日報社 論説委員長	報道機関
		梁川 真一	一関まちづくり株式会社 代表取締役 (新鮮館おおまち 店長)	民間企業等

2 課題別の意見

対象課題	意見・助言
(1) 産地をけん引する企業的経営体の育成	<p>【照井会長】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>法人間連携の取組みは評価できる。農地の交換集約に期待したい。</li> <li>加工用ばれいしょ、ピーマンの田畑輪換などブロックローテーションを行うのか。</li> </ul> <p>【山崎センター長】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ステークホルダーをまきこんだ園芸品目導入研修会は評価できる。その中での作業指示書は珍しい取組みだと感じた。</li> <li>テーマが企業的経営体の育成に対し、実行内容は品目対策的になっているのが残念。</li> </ul> <p>【宮路グループ長】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域の主要な担い手である集落営農に関し、集落営農法人情報交換会の開催など、集落営農の課題解決や経営効率化に向けた情報の共有や連携の促進が図られている点は、課題解決に有効であると考えられ評価できる。</li> <li>加工用ばれいしょについては、抽出された課題を解決し、収量目標が達成されることを期待します。また、集落営農では、高齢化、労働力の減少、法人化など、様々な課題が残されていると思いますので、集落営農法人情報交換会などの集まりを通して、課題の共有や改善への取組みが、継続して行われることを期待します。</li> </ul> <p>【四戸論説委員長】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>水田利用のモデル経営体の育成のため、加工用ばれいしょに注目し、単に面積や経営体を増やすのみならず、JAなどを巻き込むことで計画的、持続的な産地形成を図ろうとする意欲が感じられる。</li> <li>法人間連携は地域による基盤整備の進捗や土地に対する世代間の考えのギャップなど難しさも多いという説明があった。行政という中立的な仲介役として一層の役割の発揮を期待したい。</li> </ul>

	<p>【梁川代表取締役】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域の担い手に対しての支援、情報共有について、課題に対しての取組みは大切だと感じました。</li> <li>・ 生産者とのコミュニケーションを図ることで、次に瑠奈がる生産者がうまれることを期待しています。</li> <li>・ 加工用じゃがいもについては、出口のニーズをとらえての取組みも非常に興味深く感じました。</li> </ul>
--	--

### 3 普及指導活動の体制等への意見

普及指導活動の体制等	意見・助言
(1) 組織体制	
(2) 人員の動向	
(3) 普及員の資質向上の取組	
(4) その他	

1 意見交換の実施状況

実施日時	対象課題（中課題）	外部有識者		
		氏名	所属及び職名	区分
令和 6 年 3 月 7 日 10 時 00 分～16 時 30 分	(1) 水田フル活用による収益性の高い水田農業の確立	照井 勝也	公益社団法人 岩手県農業法人協会 会長 (岩手県農業農村指導士、西部開発農産 代表取締役社長)	先進的な 農業者
実施場所		山崎 勉	岩手県農業協同組合中央会 JAいわてグループ農業担い手サポートセンター センター長	農業関係団体
岩手県公会堂 21 号室 ウェブ会議		宮路 広武	国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 東北農業研究センター 緩傾斜畑作研究領域 生産力増強グループ グループ長	学識経験者
		四戸 聡	岩手日報社 論説委員長	報道機関
		梁川 真一	一関まちづくり株式会社 代表取締役 (新鮮館おおまち 店長)	民間企業等

2 課題別の意見

対象課題	意見・助言
(1) 水田フル活用による収益性の高い水田農業の確立	<p><b>【照井会長】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>課題背景について非常に理解している点が評価できる。</li> <li>畦畔管理の省力化として、DZ 作戦の除草剤の散布方法は期待したい。</li> </ul> <p><b>【山崎センター長】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>業務を進める上で基本をしっかりと捉えている。</li> <li>今後、得られた成果は数値化し、結果や成果を分かりやすくまとめてほしい。</li> </ul> <p><b>【宮路グループ長】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>SPDCA サイクルを意識して、解決すべき課題の抽出から必要な改善に取り組んでいる点は評価できる。また、生産者と課題を共有し、ピーマンの病害発生の抑制など具体的な改善が行われている点も評価できる。</li> <li>水稲については、ピーマン等に比較して、課題の抽出に十分取り組めなかったとのことですので、次年度、十分に取組まれることを期待します。また、残された課題、対応についても具体的に検討されているので、改善に向け取組まれることを期待します。</li> </ul> <p><b>【四戸論説委員長】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>経営体の作業計画の最適化について、丹念な指導で法人側との信頼関係を構築し、収益性・労働生産性を考慮した栽培計画の見直しを実現している。</li> <li>畦畔管理の省力化など技術的課題の支援については、一層の支援能力の向上が期待される。</li> </ul> <p><b>【梁川代表取締役】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>課題、背景に対する取組みが良いと感じました。(改善のポイント、ねらいが明確)</li> <li>直売所、行政、普及センター、生産者が情報共有し、地域モデルをつくり発信し、担い手育成に繋がしましょう。取組みに期待しています。</li> </ul>



3 普及指導活動の体制等への意見

普及指導活動の体制等	意見・助言
(1) 組織体制	
(2) 人員の動向	
(3) 普及員の資質向上の取組	
(4) その他	

1 意見交換の実施状況

実施日時	対象課題（中課題）	外部有識者		
		氏名	所属及び職名	区分
令和 6 年 3 月 7 日 10 時 00 分～16 時 30 分	(1) 野菜産地の維持拡大	照井 勝也	公益社団法人 岩手県農業法人協会 会長 (岩手県農業農村指導士、西部開発農産 代表取締役社長)	先進的な 農業者
実施場所		山崎 勉	岩手県農業協同組合中央会 JAいわてグループ農業担い手サポートセンター センター長	農業関係団体
岩手県公会堂 21 号室 ウェブ会議		宮路 広武	国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 東北農業研究 センター 緩傾斜畑作研究領域 生産力増強グループ グループ長	学識経験者
		四戸 聡	岩手日報社 論説委員長	報道機関
		梁川 真一	一関まちづくり株式会社 代表取締役 (新鮮館おおまち 店長)	民間企業等

2 課題別の意見

対象課題	意見・助言
(1) 野菜産地の維持拡大	<p><b>【照井会長】</b></p> <p><b>【山崎センター長】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 技術講習会の成果が素晴らしい。なぜなのかもっと分析しても良い。</li> <li>・ 数多くのチャレンジ項目があり、努力行動内容が見えやすい。</li> <li>・ なぜ、JA いわて花巻が説明比較されるのか少し説明が必要。</li> </ul> <p><b>【宮路グループ長】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ JA の生産部会等と連携して、かん水による高温対策など、必要な指導が実践的に行われている点は評価できる。また、地域と対象の変化について、実態や状況が丁寧に把握されている点も改善に向けて有効であり、評価できる。</li> <li>・ 今年度のピーマンの収量差の要因等についても把握し、対応策も確認されていることから、次年度以降も必要な対策を適時に実施し、目標が達成されるよう指導に取り組まれることを期待します。</li> </ul> <p><b>【四戸論説委員長】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 野菜産地の維持・拡大に不可欠な新規参入の増加を目標に掲げ、ピーマンにおける新規栽培者数、および技術向上という成果を上げた。具体的な高温対策の技術指導もニーズにマッチしている。この点については同時に課題にも掲げており、より高いレベルを目指そうとする担当者の意欲が感じられる。</li> </ul> <p><b>【梁川代表取締役】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 若手生産者向けの技術指導やニーズに対応した取組が良かった。今後、ニーズに対して生産拡大対応できるような技術支援を期待します。</li> </ul>

### 3 普及指導活動の体制等への意見

普及指導活動の体制等	意見・助言
(1) 組織体制	
(2) 人員の動向	
(3) 普及員の資質向上の取組	
(4) その他	<p>【梁川代表取締役】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>大船渡に限った取組というわけではないですが、高温時等のリスク管理をターゲットにした取組も期待します。</li></ul>

1 意見交換の実施状況

実施日時	対象課題（中課題）	外部有識者		
		氏名	所属及び職名	区分
令和 6 年 3 月 7 日 10 時 00 分～16 時 30 分	(1) 水稻・畑作物の生産力向上	照井 勝也	公益社団法人 岩手県農業法人協会 会長 (岩手県農業農村指導士、西部開発農産 代表取締役社長)	先進的な 農業者
実施場所		山崎 勉	岩手県農業協同組合中央会 JAいわてグループ農業担い手サポートセンター センター長	農業関係団体
岩手県公会堂 21 号室 ウェブ会議		宮路 広武	国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 東北農業研究センター 緩傾斜畑作研究領域 生産力増強グループ グループ長	学識経験者
		四戸 聡	岩手日報社 論説委員長	報道機関
		梁川 真一	一関まちづくり株式会社 代表取締役 (新鮮館おおまち 店長)	民間企業等

2 課題別の意見

対象課題	意見・助言
(1) 水稻・畑作物の生産力向上	<p><b>【照井会長】</b></p> <p><b>【山崎センター長】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域事情、実態の中で、地に足がついた普及活動を実践している。</li> <li>農家の実態にあわせた指導と農家意識の向上が評価できます。</li> </ul> <p><b>【宮路グループ長】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「銀河のしずく」の生産拡大については、研修会や検討会を通じた課題の共有や対策実施効果の提示を行い、追肥などの具体的対策が実施され、収量向上目標も達成されている点は評価できる。</li> <li>大豆についても生産者と課題の共有を行い、具体的に要改善点の抽出を行っている点は評価できる。</li> <li>「銀河のしずく」については、高温障害など新たな対策の実施が必要な課題もあるため、引き続き、生産者と課題を共有し、有効な対策が実施されることを期待します。</li> </ul> <p><b>【四戸論説委員長】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>銀河のしずくの生産意欲の向上を受け、きめ細かな技術支援を行い、栽培研究会のメンバーと一緒に地域に特化した栽培マニュアルの改訂につなげたことは成果。昨年は高温障害で品質確保に苦労したとのことであり、克服への普及センターに寄せられる期待は大きく、今季は十分な準備をして臨んでいただきたい。</li> </ul> <p><b>【梁川代表取締役】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>課題に対し、「できること」からコツコツ継続して取組みされたこと、課題を可視化したことにより、今後の技術支援や収益の向上につながると感じました。</li> </ul>

3 普及指導活動の体制等への意見

普及指導活動の体制等	意見・助言
(1) 組織体制	
(2) 人員の動向	
(3) 普及員の資質向上の取組	
(4) その他	

1 意見交換の実施状況

実施日時	対象課題（中課題）	外部有識者		
		氏名	所属及び職名	区分
令和 6 年 3 月 7 日 10 時 00 分～16 時 30 分	(1) 産地力向上に向けた酪農及び和牛経営体の育成	照井 勝也	公益社団法人 岩手県農業法人協会 会長 (岩手県農業農村指導士、西部開発農産 代表取締役社長)	先進的な 農業者
実施場所		山崎 勉	岩手県農業協同組合中央会 JAいわてグループ農業担い手サポートセンター センター長	農業関係団体
岩手県公会堂 21 号室 ウェブ会議		宮路 広武	国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 東北農業研究センター 緩傾斜畑作研究領域 生産力増強グループ グループ長	学識経験者
		四戸 聡	岩手日報社 論説委員長	報道機関
		梁川 真一	一関まちづくり株式会社 代表取締役 (新鮮館おおまち 店長)	民間企業等

2 課題別の意見

対象課題	意見・助言
(1) 産地力向上に向けた酪農及び和牛経営体の育成	<p>【照井会長】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 牧草の自給率を意識しているか。</li> </ul> <p>【山崎センター長】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 多くの実施項目の実施をしている一方で、説明内容は絞った方が良い。特徴のある内容に絞った方が良い。</li> </ul> <p>【宮路グループ長】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 酪農経営に関して、後継者への個別巡回指導や集合研修を実施し、生産者自身での課題抽出や改善への取組みが行われ始めている点は評価できる。また、獣害の実態調査と注意喚起など、懸念される課題への情報提供が行われている点も評価できる。</li> </ul> <p>【四戸論説委員長】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 和牛繁殖経営体の生産性向上については生産者間で飼養レベルや取り組みの意識にばらつきがあると思われ、今後の対応として個別課題の解決に向けた支援の必要性を挙げているのは適切と感じた。</li> </ul> <p>【梁川代表取締役】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ なかなか難しい課題に取り組んでいると感じました。目標設定や目標に向けての改善提案、今後も継続的に努力していただきたいと思います。</li> </ul>

### 3 普及指導活動の体制等への意見

普及指導活動の体制等	意見・助言
(1) 組織体制	
(2) 人員の動向	
(3) 普及員の資質向上の取組	
(4) その他	<p><b>【宮路グループ長】</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 獣害については、対策は簡単ではないと考えますが、実態把握は進んでいるようですので、効果的な対策が実施できることを期待します。</li></ul>

1 意見交換の実施状況

実施日時	対象課題（中課題）	外部有識者		
		氏名	所属及び職名	区分
令和 6 年 3 月 7 日 10 時 00 分～16 時 30 分	(1) 次世代を担う新規就農者の確保・育成	照井 勝也	公益社団法人 岩手県農業法人協会 会長 (岩手県農業農村指導士、西部開発農産 代表取締役社長)	先進的な 農業者
実施場所		山崎 勉	岩手県農業協同組合中央会 JAいわてグループ農業担い手サポートセンター センター長	農業関係団体
岩手県公会堂 21 号室 ウェブ会議		宮路 広武	国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 東北農業研究センター 緩傾斜畑作研究領域 生産力増強グループ グループ長	学識経験者
		四戸 聡	岩手日報社 論説委員長	報道機関
		梁川 真一	一関まちづくり株式会社 代表取締役 (新鮮館おおまち 店長)	民間企業等

2 課題別の意見

対象課題	意見・助言
(1) 次世代を担う新規就農者の確保・育成	<p>【照井会長】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>成果が今後継続していくのか気になる。農業法人がどれ位あるのか説明が欲しかった。</li> </ul> <p>【山崎センター長】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>就農の活動の行動力がすばらしい。</li> <li>非農家からの就農ニーズをしっかりとらえている点は評価できる。</li> </ul> <p>【宮路グループ長】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新規就農者確保については、地元ラジオなどを活用したワンストップ相談会の告知を積極的に行い、相談件数も大きく増加している点は評価できる。また、県立農大生と地域農業関係者との懇談会の開催など、就農指向者への情報提供も積極的に行い就農に結び付いている点は評価できる。</li> <li>就農相談から、就農実現につながるよう、情報提供や就農前研修施設の有効活用など、継続した取組みを期待します。また、認定新規就農者の販売計画額の達成については、個別に課題は異なると考えられますが、具体的要望の収集など、継続的な支援を期待します。</li> </ul> <p>【四戸論説委員長】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新規就農者の確保に向けて、その前段となる相談会の増加に各種メディアや関係機関と連携した相談会・情報交換会などに積極的に取り組んでいる。就農志向者のニーズに合った研修受け入れ経営体リストの作成も、受け入れ側の意識啓発、体制充実を図る意味からも効果的と思う。</li> <li>目標に実績が届いておらず、特に就農者確保は他地域の取り組みも参考に、より若者の視点・志向に沿った活動が必要になっていると推察する。</li> </ul> <p>【梁川代表取締役】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>なかなか難しい課題に取り組んでいると感じました。</li> <li>目標設定や目標に向けての改善提案、今後も継続的に努力いただきたいと思います。</li> </ul>



3 普及指導活動の体制等への意見

普及指導活動の体制等	意見・助言
(1) 組織体制	
(2) 人員の動向	
(3) 普及員の資質向上の取組	
(4) その他	

## 普及指導計画の策定及び普及指導活動の実施と評価に関する要領

### 第1 趣 旨

県では、協同農業普及事業の実施に関する方針（以下「実施方針」という。）を定め、農業者が将来展望をもって農業経営に取り組むことができるよう、農業者の所得向上と地域課題の迅速な解決を目指し、効果的な普及指導活動を展開することとしている。

この要領は、普及指導活動を効果的かつ効率的に実施するため、普及指導計画の策定、これに基づいたスペシャリスト機能・コーディネート機能・総合的な企画運営能力を発揮した普及指導活動の実施と記録、幅広い視点からの客観的な評価の実施及び評価に基づく活動の見直しを一連のサイクルとして行うことについて、必要な事項を定めるものである。

### 第2 普及指導計画の策定

- 1 農業普及技術課及び農業改良普及センターは、「いわて県民計画」の目標実現に向け、計画的かつ継続的な普及指導活動を行うため、4カ年を計画期間とする普及指導計画を策定する。
- 2 農業普及技術課及び農業改良普及センターは、普及指導計画の策定に資するため、実施方針に掲げる普及指導活動の課題や「いわて県民計画」の各プランに則し、計画活動により解決する基本的な課題（以下「基本課題」という。）を設定する。
- 3 基本課題のうち、重要かつ広域的な課題を県重点課題として農業普及技術課が選定し、その課題に対応した普及指導計画を策定する。  
また、基本課題のうち、地域において重要な課題を地域重点課題として農業改良普及センターが選定し、その課題に対応した普及指導計画を策定する。
- 4 農業普及技術課が策定する普及指導計画は「県重点プロジェクト計画」、農業改良普及センターが策定する普及指導計画は「地域重点課題普及指導計画」と呼称する。
- 5 普及指導計画は、普及指導方針及び課題別計画の構成とし、地域農業・農村の現状及び農政推進上の課題、目指す姿や目標を明らかにして策定する。

なお、普及指導計画等の内容や課題の計画期間は、課題解決の進捗状況等、必要に応じて変更することができるものとする。

- (1) 県重点プロジェクト計画は様式第1号により作成し、地域重点課題普及指導計画は様式第2号により作成する。
- (2) 普及指導方針は、様式第1-1号、様式第2-1号により作成し、様式に掲げる事項を定める。
- (3) 課題別計画は、様式第1-2号、様式第2-2号により作成し、様式に掲げる事項を定める。また、課題別計画ごとに工程表を作成する。

6 農業普及技術課及び農業改良普及センターは、県重点課題又は地域重点課題以外の基本課題について、活動計画（以下「基本課題に係る活動計画」という。）を策定する。

なお、基本課題に係る活動計画は、参考様式によるほか、達成目標や達成手段・方法を明記した任意様式により策定するものとする。

7 農業普及技術課及び農業改良普及センターは、高度化かつ多様化する農業者等のニーズに対応し、より一層効果的かつ効率的な普及指導活動の展開を図るため、普及指導計画の策定にあたって、次の内容に留意する。

(1) 消費者や農業者のニーズの視点をもって活動するため、農業普及員が巡回指導や各種の調査等を通じて収集整理した情報をもとに管内の農業及び農村の現状を踏まえ、重点的に取り組むべき課題と支援対象者を絞り込む。

(2) 課題解決に向けて取り組む項目や到達目標、及び支援対象者への具体的な支援内容や目標等について、あらかじめ支援対象者と十分に協議し共有する。

(3) 農業農村指導士、普及事業パートナー、市町村や農協等の関係機関・団体、民間、県機関等と十分な協議・検討を行って課題と目標を共有し、それぞれの役割分担と連携の進め方（地域協働の姿）を明確にする。

(4) 県重点プロジェクト計画が広域的な課題解決に向け効果的な活動となるよう、農業普及技術課と農業改良普及センターの役割分担を明確にする。

8 農業普及技術課は、当該年度の県重点プロジェクト計画及び基本課題に係る活動計画を4月上旬までに農業改良普及センター、県庁農政担当課及び農業研究センターへ通知する。

なお、県重点プロジェクト計画（課題別計画：様式第1-2号）を変更しようとする場合は、事前に農業改良普及センター等から意見を聞くものとする。

9 農業改良普及センターは、当該年度の地域重点課題普及指導計画及び基本課題に係る活動計画を4月中旬までに農業普及技術課へ報告する。なお、地域重点課題普及指導計画（課題別計画：様式第2-2号）を変更しようとする場合は、事前に農業普及技術課の助言を受ける。

### 第3 普及指導活動の実施等

1 農業普及技術課及び農業改良普及センターは、普及指導計画及び基本課題に係る活動計画に基づき、効果的かつ効率的な普及指導活動を実施する。なお、県重点プロジェクト計画については、明確化された役割分担に基づき農業普及技術課と農業改良普及センターが一体となって活動する。

2 農業普及技術課及び農業改良普及センターは、課題別単年度実績（様式第1-3号、様式第2-3号）により普及指導計画の進捗状況を把握しながら、当該年度の普及指導活動を計画的かつ効果的に実施するよう努める。また、基本課題に係る活動計画についても、

計画的かつ効果的に実施するよう参考様式等により進捗管理する。

- 3 農業普及技術課及び農業改良普及センターは、支援対象者等に対する普及指導活動の内容を記録・蓄積することにより活動経過を共有し、継続的な普及指導活動を実施する。
- 4 農業普及技術課及び農業改良普及センターは、普及指導活動の実施状況や成果について、毎年度、活動実績書等に取りまとめ、県のホームページ等を通じて積極的に外部に公表するとともに、地域の農業者等に対して広く周知する。

#### 第4 普及指導活動の評価

- 1 農業普及技術課及び農業改良普及センターは、普及指導活動の結果を的確に把握して、その後の効果的な活動に反映させる。
- 2 農業普及技術課及び農業改良普及センターは、普及指導計画に定めた課題の進捗状況及び活動記録を通じて明らかになった対象の変化等を整理・分析し、毎年度、課題別に内部評価を実施する。
  - (1) 課題別評価は、課題別単年度実績（様式第1-3号、様式第2-3号）により、計画策定過程、活動実施過程、活動の結果を総合的に評価し、毎年度末までに取りまとめる。

また、計画期間の最終年には、課題別実績（様式第1-4号、様式第2-4号）により、計画期間における実績を総括して評価し、当該年度末までに取りまとめる。
  - (2) 農業改良普及センターは、内部評価結果として課題別単年度実績（様式第2-3号）を、毎年度末までに農業普及技術課へ報告する。また、計画期間の最終年には、課題別実績（様式第2-4号）を当該年度末までに農業普及技術課へ報告する。
- 3 農業普及技術課及び農業改良普及センターは、幅広い視点から客観的な検討を行い、一層効果的かつ効率的な普及指導活動を展開するため、普及指導計画について、毎年度、外部有識者との意見交換を実施するものとする。
  - (1) 農業普及技術課は、意見交換を統轄し、外部有識者との意見交換会（以下「意見交換会」という。）の開催と、必要な予算措置を講ずる。
  - (2) 外部有識者は、地域の先進的な農業者（農業農村指導士等）や農業関係団体、消費者、学識経験者、報道機関、民間企業等から毎年度、一部に偏りが出ないよう5名以内とする。
  - (3) 意見交換会は、内部評価終了後の概ね2月中下旬に開催する。
  - (4) 意見交換会では、毎年度数課題を選定し、計画、活動方法及び成果、活動体制について意見、助言等を行う。
  - (5) 農業普及技術課は、外部有識者からの意見・助言等を当該年度末までに外部有識者との意見交換会実施報告書（様式第1-5号、様式第2-5号）に取りまとめ、その概要を県のホームページ等を通じて外部へ公表する。

- 4 農業普及技術課及び農業改良普及センターは、内部評価及び外部有識者との意見交換の過程を経て取りまとめた活動の成果と課題及び意見交換会の意見・助言等を踏まえて、課題解決の方策等について十分に検討を行い、次年度以降の普及指導計画に可能な限り反映させ、もって普及指導活動及びその体制の改善を行う。

## 第5 その他

この要領に定めるもののほか、必要な事項は別に定める。

### 附則

この要領は、平成18年10月6日から施行する。

### 附則

この要領は、平成20年4月1日から施行する。

### 附則

この要領は、平成23年5月2日から施行する。

### 附則

この要領は、平成27年4月1日から施行する。

### 附則

この要領は、平成27年12月3日から施行する。

### 附則

この要領は、平成28年10月31日から施行する。

### 附則

この要領は、平成31年4月1日から施行する。

### 附則

この要領は、令和3年1月27日から施行する。

### 附則

この要領は、令和4年9月29日から施行する。

### 附則

この要領は、令和6年2月6日から施行する。